

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、でん粉に関して適切な価格調整を図るため、半期ごとにでん粉の需給見通しを公表している。3月に公表したでん粉の需給見通しの概要は、次の通り。

でん粉の需給見通し

【平成30でん粉年度（実績）】

需要量：265万6000トン（前年度比0.6%減）

供給量：267万1000トン（同0.5%減）

【令和元でん粉年度（見通し）】

需要量：270万2000トン（同1.7%増）

供給量：272万5000トン（同2.0%増）

表1 でん粉の需給見通し

（単位：千トン）

		平成29でん粉年度 （実績）	平成30でん粉年度 （実績）		令和元でん粉年度 （見通し）			
		計	10-3月	4-9月	計	10-3月	4-9月	計
需要	糖化製品	1,737	804	967	1,772	836	987	1,823
	化工でん粉	323	160	167	328	154	163	317
	その他（製紙用、ビール用、片栗粉など）	614	283	274	557	267	295	562
	合計	2,673			2,656			2,702
供給	前年度繰り越し	9			12			14
	国産いもでん粉（生産量）	211	197	—	197	206	—	206
	かんしょでん粉	29	27	—	27	28	—	28
	ばれいしょでん粉	182	170	—	170	178	—	178
	調整金 徴収 対象							
	コーンスターチ	2,303	1,073	1,222	2,295	1,083	1,244	2,327
	輸入でん粉 （糖化製品、化工でん粉用）	135	69	72	141	71	76	146
	輸入でん粉（その他用）	9	5	4	9	5	9	14
	小麦でん粉	17	8	9	17	8	9	17
	合計	2,685			2,671			2,725
	次年度繰り越し	12			14			23

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

表2 国内産いもでん粉の需給見通し

(単位：千トン)

			令和元年10月～令和2年3月 (見込み)			令和2年4月～9月 (見通し)			令和元でん粉年度計		
			かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	上期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	下期計	かんしょ でん粉	ばれいしょ でん粉	計
需要	交付金 対象 用途	糖化製品	8	12	19	7	16	23	15	28	42
		化工でん粉	2	13	14	1	15	16	3	27	30
		その他	6	20	25	5	23	28	11	43	53
		小計	15	44	59	13	54	66	28	97	125
	その他の用途	0	31	31	0	42	42	0	73	73	
	計	15	75	90	13	95	108	28	170	198	
供給	前期からの繰り越し	5	9	14	18	113	131	5	9	14	
	生産量	28	178	206	0	0	0	28	178	206	
	計	33	188	220	18	113	131	33	188	220	
次期への繰り越し			18	113	131	5	18	23	5	18	23

資料：農林水産省「でん粉の需給見通しについて」

注1：でん粉年度とは、10月から翌9月まで。

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

注3：交付金対象用途の「その他」について

ばれいしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、調味料、板紙（層間接着用）、水産養殖餌料などである。

かんしょでん粉は、菓子類、麺類、水産練製品、冷凍調理食品、食肉製品、建材などである。

注4：交付金対象用途外の「その他の用途」は、片栗粉などである。

(1) でん粉の需要量の見通し

用途ごとのでん粉の需要量の見通しは以下の通り。

【糖化用向けでん粉の需要量】

平成30でん粉年度は、前年度からわずかに増加

30でん粉年度は、上期に清涼飲料向けの販売数量が前年よりも高い傾向で推移したことや、下期にパン類や冷菓の販売数量が前年よりも高い傾向で推移したことなどから、前年度を3万5000トン上回る、177万2000トンとなった。

令和元でん粉年度は、上期に冷菓向けの販売数量が前年を上回って推移していることや、見通し発表時点では下期に、東京オリンピック・パラリンピック開催が予定されていたことにより、清涼飲料向けの需要の増加が予想されるとの見込みから、前年度を5万1000トン上回る、182万3000トンと見通している。

【化工でん粉用向けでん粉の需要量】

平成30でん粉年度は、前年度からわずかに増加

30でん粉年度は、食品用途向けの需要が増加したことなどから、前年度を5000トン上回る、32万8000トンとなった。

令和元でん粉年度は、情報・広告分野を中心とした電子化の影響などにより、製紙・段ボール向けの需要が減少していることなどを踏まえ、前年度を1万1000トン下回る、31万7000トンと見通している。

【その他用途向けでん粉の需要量】

平成30でん粉年度は、前年度からかなりの程度減少

30でん粉年度は、ビール向けの需要が減少したことなどから、前年度を5万7000トン下回る、55万7000トンとなった。

令和元でん粉年度は、食品向けの需要が増加傾向であることなどを踏まえ、前年度を5000トン上回る、56万2000トンと見通している。

(2) でん粉の供給量の見通し

各種でん粉の供給量の見通しは以下の通り。

【かんしょでん粉の生産量】

平成30でん粉年度は、前年度からかなりの程度減少

30年産の原料かんしょについては、サツマイモ^{もとぐされ}基腐病が鹿児島県内2割の圃場^{ほじょう}で確認されたことから、かんしょでん粉の生産量は、前年を2000トン下回る2万7000トンとなった。

令和元年産の原料かんしょについては、サツマイモ基腐病が鹿児島県内の5割の圃場で確認されたものの、焼酎用需要が減少したため、かんしょでん粉の生産量は前年を1000トン上回る、2万8000トンと見込まれている。

【ばれいしょでん粉の生産量】

平成30でん粉年度は、前年度からかなりの程度減少

30年産の原料ばれいしょについては、6月以降の天候不順により着いも数が少なく小玉傾向となったため、ばれいしょでん粉の生産量は、前年を1万2000トン下回る、17万トンとなった。

令和元年産の原料ばれいしょについては、生育期間全般において天候に恵まれ、いもの肥大が良好であったため、ばれいしょでん粉の生産量は前年を8000トン上回る、17万8000トンと見込まれている。

【コーンスターチの供給量】

平成30年でん粉年度は、前年度をわずかに下回る

コーンスターチの原料となるトウモロコシ(2018年産)は、わが国のコーンスターチ用トウモロコシの大部分を供給する米国において、生産量は前年より700万トン減少し、3億6400万トンの見込みとなったが、必要量は安定的に供給されたことから、

30でん粉年度の供給量はでん粉ベースで前年度を8000トン下回る、229万5000トンとなった。

2019年産の米国のトウモロコシ生産量は前年を1600万トン下回り、3億4800万トンと見込まれるものの、全世界における生産量は前年並みであることなどから、必要量は安定的に供給されるものと見込まれ、令和元でん粉年度の供給量はでん粉ベースで前年度を3万2000トン上回る232万7000トンと見通している。

【輸入でん粉の供給量】

(糖化製品、化工でん粉用)

平成30でん粉年度は、前年度からやや増加

30でん粉年度は、タピオカでん粉の主要輸出国であるタイにおいて、タピオカでん粉の価格が低下し、輸入量が増加したことなどから、前年度を6000トン上回る、14万1000トンとなった。

令和元でん粉年度は、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(TPP11協定)に基づき設定された関税割当枠が活用されることなどを見込み、前年度を5000トン上回る、14万6000トンと見通している。

【輸入でん粉の供給量】(その他用)

平成30でん粉年度は、前年度同

30でん粉年度は、前年度同の9000トンとなった。

令和元でん粉年度は日EU経済連携協定(EPA)に基づき設定された関税割当枠が活用されることなどを見込み、前年度を5000トン上回る1万4000トンと見通している。

【小麦でん粉の供給量】

平成30でん粉年度は、前年度同

小麦でん粉は、主に畜水産練製品向けとして供給されており、30でん粉年度は1万7000トンとなった。

令和元でん粉年度についても、安定した供給がなされると見込まれ、1万7000トンと見通している。

2. 輸入動向

【タピオカでん粉の輸入動向】

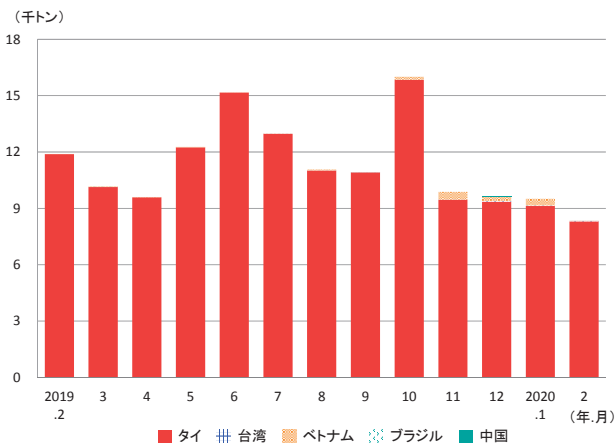
2月の輸入量は前年同月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2020年2月のタピオカでん粉の輸入量は、8336トン（前年同月比29.9%減、前月比12.3%減）と、前年同月を大幅に下回った（図1）。

輸入先国はタイ、台湾およびベトナムの3カ国で、輸入量は次の通りであった。

タイ	8306トン
	（前年同月比30.1%減、前月比9.0%減）
台湾	19トン
	（前年同月輸入実績なし、同42.7%減）
ベトナム	10トン
	（前年同月比36.9%増、同97.1%減）

図1 タピオカでん粉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

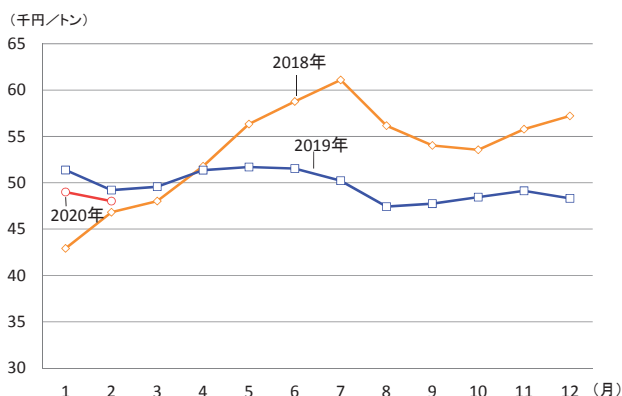
注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090、1108.14-091、1108.14-099

2020年2月の1トン当たりの輸入価格は、4万8025円（前年同月比2.4%安、前月比2.0%安）と、前年同月および前月からわずかに下落した（図2）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	4万7504円
	（前年同月比3.3%安、前月比2.0%安）
台湾	21万3735円
	（前年同月輸入実績なし、同8.6%高）
ベトナム	15万7228円
	（前年同月比25.1%安、同3.2倍）

図2 タピオカでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.14-010、1108.14-020、1108.14-090、1108.14-091、1108.14-099

【サゴでん粉の輸入動向】

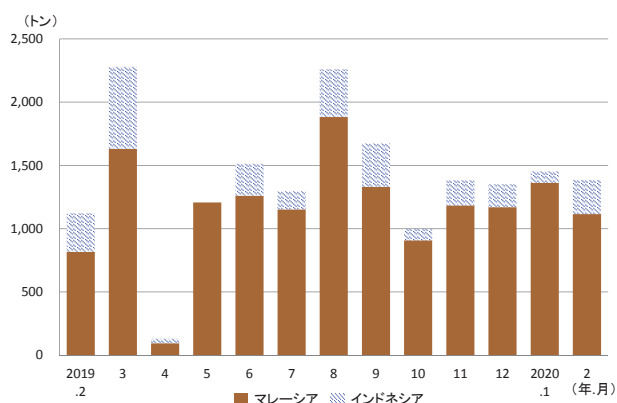
2月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2020年2月のサゴでん粉の輸入量は、1385トン（前年同月比23.6%増、前月比4.7%減）と、前年同月から大幅に増加した（図3）。

輸入先国はマレーシアおよびインドネシアの2カ国で、輸入量は次の通りであった。

マレーシア	1115トン
	（前年同月比36.5%増、前月比18.3%減）
インドネシア	270トン
	（同11.2%減、同3.0倍）

図3 サゴでん粉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

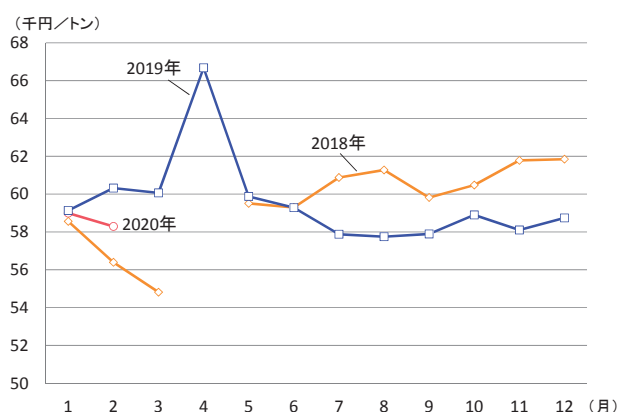
注：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-017、1108.19-018、1108.19-019

2020年2月の1トン当たりの輸入価格は、5万8293円（前年同月比3.4%安、前月比1.2%安）と、前年同月をやや下回った（図4）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

マレーシア	5万8785円
	（前年同月比3.4%安、前月比0.7%安）
インドネシア	5万6263円
	（同4.5%安、同0.8%高）

図4 サゴでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：HSコード1108.19-011、1108.19-012、1108.19-017、1108.19-018、1108.19-019

注2：2018年4月のサゴでん粉は輸入実績なし。

【ばれいしょでん粉の輸入動向】

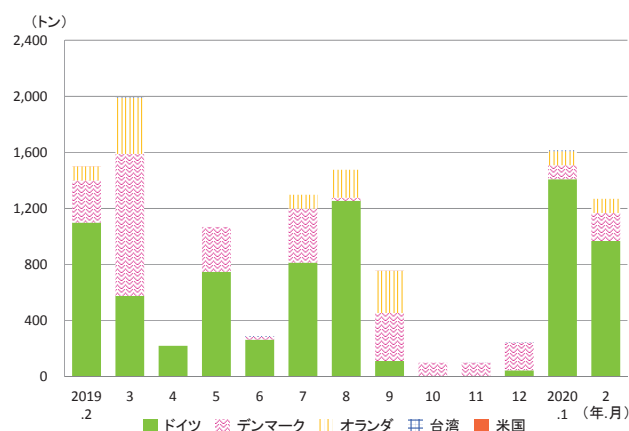
2月の輸入量は前年同月からかなり大きく、前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2020年2月のばれいしょでん粉の輸入量は1268トン（前年同月比15.5%減、前月比21.4%減）と、前年同月からかなり大きく、前月から大幅に減少した（図5）。

輸入先国はドイツ、デンマークおよびオランダの3カ国で、輸入量は次の通りであった。

ドイツ	968トン
	（前年同月比12.0%減、前月比31.3%減）
デンマーク	200トン
	（同33.3%減、同2倍）
オランダ	100トン
	（前年同月同、前月同）

図5 ばれいしょでん粉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090、1108.13-091、1108.13-099

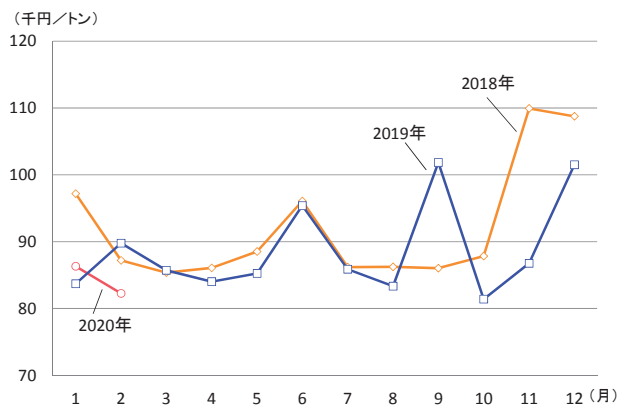
2020年2月の1トン当たりの輸入価格は、8万2264円（前年同月比8.4%安、前月比4.7%安）と、前年同月をかなりの程度下回った（図6）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

ドイツ	8万1862円
	（前年同月比2.5%安、前月比4.6%安）
デンマーク	8万4505円
	（同0.8%安、同1.3%安）

オランダ 8万1680円
(同2.6%安、同1.5%安)

図6 ばれいしょでん粉の月別輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1108.13-010、1108.13-020、1108.13-090、1108.13-091、1108.13-099

【でん粉誘導体の輸入動向】

2月の輸入量は前年同月および前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2020年2月のでん粉誘導体の輸入量は、2万6089トン（前年同月比20.1%減、前月比19.1%減）と、前年同月および前月から大幅に下回った（図7）。

でん粉誘導体の輸入先国は16カ国で、最大の輸入先国はタイであった。主要輸入先国からの輸入量は次の通りで、タイが輸入量の約7割を占めており、次いでフランス、ドイツとなっている（表3）。

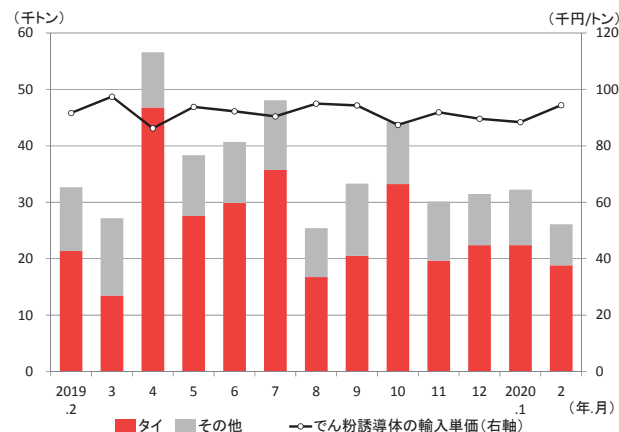
表3 でん粉誘導体の主要輸入先国および輸入量（2月）

輸入先国	輸入量（トン）	シェア（%）
合計	26,089	100.0
うち タイ	18,823	72.1
フランス	1,068	4.1
ドイツ	888	3.4
豪州	886	3.4
米国	859	3.3
スウェーデン	841	3.2

資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

2020年2月の1トン当たりの輸入価格は、9万4415円（前年同月比3.0%高、前月比6.8%高）と、前年同月からやや上昇した。

図7 でん粉誘導体の輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-100

【デキストリンの輸入動向】

2月の輸入量は前年同月からかなりの程度増加したものの、前月から大幅に減少

財務省「貿易統計」によると、2020年2月のデキストリンの輸入量は、715トン（前年同月比6.3%増、前月比32.9%減）と、前年同月からかなりの程度増加したものの、前月から大幅に減少した（図8）。

デキストリンの輸入先国は8カ国で、輸入量は上位輸入先国の数量および各国のシェアも含め、月ごとの変動が大きい。

上位輸入先国からの輸入量は次の通りで、タイで輸入量の約5割を占めている（表4）。

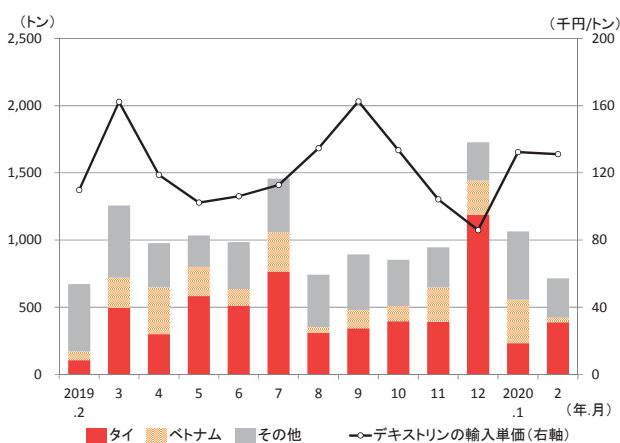
表4 デキストリンの主要輸入先国および輸入量(2月)

輸入先国	輸入量(トン)	シェア(%)
合計	715	100.0
うち タイ	389	54.4
米国	61	8.5
ドイツ	58	8.1
マレーシア	57	8.0
中国	55	7.6
フランス	50	7.0

資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

2020年2月の1トン当たりの輸入価格は、13万1174円(前年同月比19.4%高、前月比0.9%安)と、前年同月を大幅に上回った。

図8 デキストリンの輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード3505.10-200

【コーンスターチ用トウモロコシの輸入動向】 2月の輸入量は前年同月からかなり大きく増加

財務省「貿易統計」によると、2020年2月のコーンスターチ用トウモロコシの輸入量は、25万4407トン(前年同月比14.9%増、前月比8.3%増)となり、前年同月からかなり大きく増加した(図9)。

輸入先国は、米国およびブラジルの2カ国で、国別の輸入量は次の通りであった。

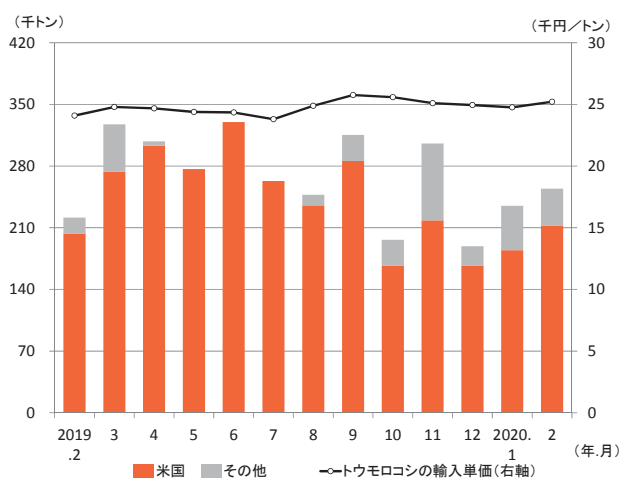
米国 21万2150トン
(前年同月比4.3%増、前月比15.0%増)
ブラジル 4万2257トン
(同2.3倍、同16.1%減)

2020年2月の1トン当たりの輸入価格は、2万5214円(前年同月比4.7%高、前月比1.8%高)と、前年同月からやや上昇した。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

米国 2万5644円
(前年同月比6.0%高、前月比1.4%高)
ブラジル 2万3054円
(同0.5%高、同1.0%高)

図9 コーンスターチ用トウモロコシの輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1005.90-091